

解説する命令とか

http.HandleFunc()

今回は、レスポンスの処理を別ファイル化してある為分かり易く代入する。

```
http.HandleFunc("/user/create",page.Create)
```

とは、下記です。

```
http.HandleFunc("/user/create",func (w http.ResponseWriter, r *http.Request) )
```

func (w http.ResponseWriter, r *http.Request) ですが、http.HandlerFunc 関数を無名関数にしたものだそうです。

http.ResponseWriterインタフェース

ハンドラ関数の第一引数には、http.ResponseWriterインタフェース型のオブジェクトが渡されます。このオブジェクトはHTTPレスポンスヘッダへの値セットや、HTTPレスポンスボディへの出力に使用します。

http.Request構造体

ハンドラ関数の第二引数には、http.Request構造体型のオブジェクトが渡されます。この構造体にはHTTPリクエストの内容が格納されています。

Requestの中身は[こちらのDocument](#)にありました。ほええ

sql.Open

```
sql.Open("mysql", "root@/ca_tech_dojo")
```

外部ライブラリ：Mysqlのドライバを導入

```
go get "github.com/go-sql-driver/mysql"
```

import文

```
import _ "github.com/go-sql-driver/mysql"
```

先頭の _ がないと、パッケージのメンバを明示的に利用するコードが無いことからビルドエラーとなる。

役割

ドライバの名前を指定して、データベースに接続する。

パラメータ	内容
第一引数	ドライバ名
第二引数	接続情報（ユーザ名 パスワード）
第一戻り値	DBハンドル
第二戻り値	Errorハンドル